

記者配布資料

解禁設定=3月16日(金)14:15

平成 24 年 3 月 16 日

大阪経済記者クラブ会員各位 (同時提供先:大阪市政記者クラブ)

「水都大阪の新たな観光拠点」調査報告 ~西日本一の規模を誇る"食の拠点"大阪市中央卸売市場(本場)を中心に、 中之島西部エリアの活性化を提案~

【お問合せ先】

大阪商工会議所地域振興部 中野・中村 ☎06(6944)6323

- ○大阪商工会議所は、大阪市とともに、平成23年7月から、「水都大阪の新たな観光拠点・調査検討委員会」(座長:橋爪紳也・大阪府立大学教授、学識者や民間企業等で構成)を設置し、主として「大阪市中央卸売市場(本場)」(以下、「中央市場」)とその周辺地域を対象に、水都大阪の新たな観光拠点として活性化する方策を検討、このほど報告書をとりまとめた。
- ○大阪都心部の水辺、特に中之島地区周辺では、ここ数年で、遊歩道や船着場等の整備が進み、民間による賑わい拠点等も形成されてきたが、川の駅はちけんや中之島 公園がある東部に比べ、大阪国際会議場以西の西部の活性化が課題となっている。
- ○同報告書では、中央市場とその周辺の中之島西部エリアを新たな観光拠点とするために、①西日本一の規模を誇る"食の拠点"の発信、②潜在的魅力をもつ周辺地域、 舟運との連携による相乗的な魅力創造を目標にした取り組みを提案している。
- ○具体的には、中央市場や周辺地域には、<u>「市場ならでは」の飲食や買い物を期待する観光客が楽しめる</u>施設や機会がほとんどないことから、<u>市場前の水辺空間等を活用した飲食店舗の設置などの賑わいづくり</u>や、市場の流通機能を尊重しながら、<u>市場の"特別感"を堪能できる市場見学ツアー実施</u>に向けたルールづくり等の取り組みを提案している。
- 〇こうした取り組みの一環として、<u>まず3~5月の第4日曜日に、中央市場南側の水</u> 辺空間を活用した場外朝市「天下の台所 ざこばの朝市」を実証実験として開催し、 今後の定期開催の可能性を探る。

「水都大阪の新たな観光拠点調査検討報告書」の概要(報告書冒頭の骨子参照)

1. 目標像

- ①西日本一の規模を誇る"食の拠点"の発信
- ②潜在的魅力を持つ周辺地域、舟運との連携による相乗的な魅力創造



2. 取組分野

- ①<u>市場内外の賑わい形成</u>:「市場ならでは」を期待する来場者の受け皿として、 常設または定期的・継続的な店舗を設置し、賑わいの場を定着させる。
- ②市場見学ツアーの充実:市場内部の"特別感"を堪能できる観光客向けツアーや、国内外からの教育旅行を積極的に受入れ、市場の知名度向上をはかる。
- ③<u>周辺地域との連携</u>:大阪主要観光拠点とのアクセスを確保するため、舟運による水上アクセスを充実させる。

3. 推進方針

- ①水辺空間を活用した場外朝市の定期開催や、水辺空間を活用した飲食店舗の設置など実証実験による試行・検証を行い、市場内外の本格的な賑わい形成をめざす。
- ②同時に、中之島西部エリア全体のシンボル空間創出に向け、象徴的な光の演出や、対岸エリアのリノベーション等をオール大阪で推進し、エリアのブランド化をめざす。
- ※「中之島西部エリアのシンボル空間・将来イメージの一例(パース絵)」は、報告書 26 ページ参照。

実証実験事業「天下の台所 ざこばの朝市」の概要

日 時 : 3月25日(日)、4月22日(日)、5月27日(日)

 $8:00\sim14:00$ (バーベキューは $9:00\sim$)

場 所 : 大阪市中央卸売市場前、安治川沿いの野田南緑道(大阪市福島区)

主 催 :「天下の台所 ざこばの朝市」プロジェクト実行委員会

(大阪市、大阪商工会議所、民間企業で構成)

内容:①海鮮バーベキューコーナー(有料・事前申込制)

9:00~、10:50~、12:40~ の3回制

- ②食育体験コーナー (お寿司づくり体験、せり体験など)
- ③飲食・物販ブース

以上

<添付資料> ○水都大阪の新たな観光拠点調査検討報告書

○「天下の台所 ざこばの朝市」チラシ

Ш.

新たな観光拠点の調査検討



中之島地区周辺

●基盤整備が進展、

西部エリアのソフトコンテンツ開発が課題

- ・中之島西部エリアの国際・文化ゾーン開発
- ・親水性を高めた水辺空間の整備
- カフェなど水辺のにぎわい拠点形成
- ・中之島東部を中心とした多様なイベント開催
- ・橋梁、護岸、船着場のライトアップ整備
- ・舟運一八軒家浜・淀屋橋港発着の定期航路

関連計画

水と光のまちづくり構想

- ・水都大阪の新しい顔となるシンボル空間の創出―中之島西部
- ◆ 大阪市観光振興戦略・千客万来都市OSAKAプラン
- 市場など食・地域資源の活用
- ・舟運活性化に向けた中央卸売市場前港の有効活用

新たな観光拠点候補地 大阪市中央卸売市場(本場)

及大び阪 周 市 **辺地域** 売市場(本場 昔ながらの長屋や路地、地蔵 などが残る下町風情漂う地区 国際・文化ゾーン整備進行 中之島西部エリア 野田地区 対象エリア 大阪市中央卸売市場(本場) ・水辺空間 年間取扱高国内第2位、市場施 阿波座駅 設規模日本一の広域を対象と した食の流通拠点 富島、旧川口居留地、江之子島 など大阪発展の礎となった地区 臨海部と"水の回廊"の結節点

●市場見学(社会見学)

- ·年間13,000人以上参加
- ·大阪府市内学校、一般等
- ●市場体験ツアー (市場見学+料理教室) 年5回
- ●開場80周年記念市場まつり
 - •約38.000人来場

<他市場の動き>

- 一般見学者受け入れ
- …自由見学ルール制定
- …朝市等の定期開催
- 民間による見学ツアー
- ・冷凍まぐろせり見学
- 場外賑わい形成

二市 ズ

市開

場か

ゔ゙゙れ

くた

- 「市場ならでは」の食事、生鮮食品販売、豊富な品揃え
- ●水辺空間での定期的なイベントやマーケット開催

①市場・食

- ・広域の食の流通拠点、西日本一の規模を誇る中央卸売市場としてのブランド性
- ・せりなど日本独特の市場システム ・市場見学(社会見学)ツアーの定着
- ・食文化、食品流通に対する関心の高まり ・体験型教育旅行ニーズの増加
- ・市場内の低未利用スペースの存在

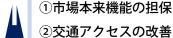
②周辺魅力

・潜在的魅力を持つ中之島西部・野田・川口に囲まれた立地 • 連鎖的相乗発展

③水辺・舟運

• 「水の回廊」と臨海部の結節点(大阪城・USI等をつなぐジャンクション)





③観光客の受皿確保

④周辺のまちと調和した 空間づくり

課

目標像

(本場)

とその周辺地域の観光拠点化に向けた取り組み

◎ 西日本一の規模を誇る"食の拠点"の発信

◎ 潜在的魅力をもつ周辺地域、舟運との連携による相乗的な魅力創造

〈1〉市場内外の賑わい形成

- •「市場ならでは」を期待する来場者 の受け皿
- ・常設または定期的・継続的な店舗設置によるにぎわいの場としての定着
- ・市場前の水辺空間、市場内 の低利用スペースを活用し た飲食店舗等の設置

〈2〉市場見学ツアーの充実

- ・大阪市中央卸売市場(本場)の"食の拠点"としての全国的な知名度向上
- ・食への関心向上、周知・PR
- ・市場内部の"特別感"を堪能 できる観光客向けツアー
- ・国内外からの教育旅行な どの積極的受入れ

〈3〉周辺地域との連携

- ・大阪主要観光拠点とのアクセス確保
- ・最寄駅のある周辺地域から市場をめぐる ストーリー構築
 - ・水上からのアクセス確保
 - ・観光バス等の受入れ
 - ・最寄駅からのルート整備
- ・周辺での賑わい拠点機能整備

〈4〉目標像の可視化

- ・目標像、〈1〉~〈3〉の各取 組の浸透、PR
- ・パブリシティ
- ・建物のしつらえデザイン、案内サイン設置等

①市場内部及び外部(市場前の水辺空間等)から周辺への取り組み波及

- ・市場内部及び市場前の水辺空間を活用した取り組みの具体化
- ・オール大阪で取り組む中之島西部エリアのシンボル空間創出によるエリアのブランド化

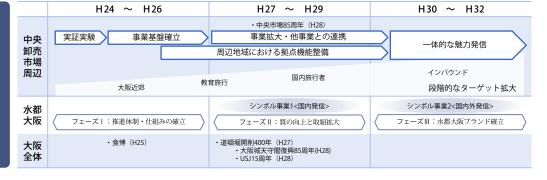
②実証実験による試行・検証

- ・継続的に実施できる推進体制、事業スキームの確立に向けた実証実験の実施
- ・市場の本来機能を尊重した上で市場関係者と連携・共立できる方法検討

③段階的なターゲット設定

・大阪近郊居住者や教育旅行などから、将来的にインバウンドを含む幅広い観光客へ





水辺空間を活用した場外朝市の定期開催

水辺空間を活用した飲食店舗の設置

旅行会社等と連携した市場見学ツアー

実証事業



8:00~14:00(雨天決行) 入場無料 ※入場を制限する場合があり 開催日時 3月25日(日) 場を制限する場合があります

大阪市福島区野田1丁目1番地 「中央市場前」交差点南側 安治

安治川沿いの遊歩道です

ッイベント内容は概合により変更になることがあります。

(十ユー(有料)※扇天中止

閏教室、お寿司作り体験ほか)

海鮮バーベキュー参加者募集!

参加ご希望の方は、客前にホームページでの申込 が必要です。下記URLのHPから応募フォームに 必要事項を入力してお申込みください。機材、食材 の持ち込みはご適度ください。

http://zakobanoasaichi.com/

バーベキュー 開催時間

- ① 9時~10時30分
- ② 10時50分~12時20分
- 3 12時40分~14時10分

OSAKA旅めがね&ざこば朝市 コラボレーション企画

「ざこば朝市満喫ツアー

ツアー参加者だけに朝市の見どころをご紹 介しまずもちろん参加者だけの特別なお買 い得情報やお土産もたくさんご用意!!詳細 はホームページをご覧ください!

http://www.tabimegane.com/

電車・バスでお越しの際

※会場には駐車場は御座いません。公共交通機関を御利用下さい。

- ◎JR環状線「野田駅」下車 徒歩約10分 ◎地下鉄千日前線「玉川駅」下車 徒歩約10分
- ◎京阪電車中之島線「中之島駅」下車 徒歩約15分
- ◎大阪市営バス90系統野田阪神行き・鶴町4丁目行き「中央市場前」下車 徒歩約2分

雑喉場とは・・・

江戸時代、水運の棚が見かった西区江文子島付近に生まれた生象市場は、 雑雑様(ざこば)と回ばれるようになりました。そして天瀬青物市場、雑株場 魚市場などが吸収され、延和6年11月、中央卸売市場が開場しました。





主催・天下の台所 ささばの製布プロジェクト実行委員会 後援・水都大阪推進委員会/大阪府/大阪府中小企業家同友会北支部 協力: 大阪市議員区役所/水上アクセス魅力向上事業実行委員会/福嘉区地域設興会野田連合制会ほか・

http://zakobanoasaichi.com/

大阪市ゆとりとみどり振興局観光室観光企画担当 06-6469-5160

水都大阪の新たな観光拠点調査検討 報告書

平成24年2月

水都大阪の新たな観光拠点・調査検討委員会

水都大阪の新たな観光拠点調査検討 報告書

◆ 目 次 →

序. はじめに	
調査の背景と目的	1
I. 中之島地区をはじめとする水辺の現況調査	
1. 中之島地区周辺の現況把握	2
2. その他の水辺エリアの現況把握	6
3. 関連計画の位置づけ	8
4. 現況からみる新たな観光拠点候補地	9
Ⅱ. 新たな観光拠点の調査検討	
1. 大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域の特性	10
2. 大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域のポテンシャルと課題	20
Ⅲ. 大阪市中央卸売市場(本場)とその周辺地域の観光拠点化に向けた	取り組み
1. 目指すべき目標像と取り組み	22
2. 取り組みの推進方針	25
3. 取り組みの展開イメージ	27
4. 実証事業メニューの提案	28

水都大阪の新たな観光拠点・調査検討委員会 検討組織体制・検討内容

序. はじめに

調査の背景と目的

大阪都心部の水辺は、ここ数年で、日本の他都市でも例をみないほど、整備活用が進み、大阪川床「北浜テラス」の設置や「とんぼりリバーウォーク」に面した店舗展開や地先利用、また個性的なクルーズ商品など、民間の取り組みによる新たな水辺の賑わいが創出されている。

中之島エリアにおいても、国際文化ゾーンとしての開発が進み、水辺の遊歩道や船着場、賑わい拠点等も形成されているが、世界に誇る水都大阪ブランドの確立をめざす水都大阪の象徴として、新たな観光拠点やシンボル空間の創出が求められるところである。

こうした中、大阪都心部の"水の回廊"と臨海部への結節点に位置する「大阪市中央卸売市場(本場)」は、西日本一の規模を誇る中央卸売市場として、各地から集まる生鮮食料品流通の根幹を担い、"天下の台所"である大阪の台所として、極めて重要な役割を果たしている。

同市場が果たす役割の大きさについて周知し、大阪の水辺における新たな魅力として、国内外に広く情報発信することは、同市場のさらなる活力の拡大につながるものと考えられる。それには、舟運等を活用した交通アクセスの改善や、市場ならではの「食」を楽しめる空間の整備なども望まれる。

そこで、本調査では、同市場を含め、水都大阪の象徴である中之島エリアを中心に、新たなブランドや観光拠点になりうるエリアや施設を発掘し、国際的な観光拠点化に向けたさらなる魅力向上、観光事業への展開、また民間投資の働きかけなどにつなげるべく、具体的方策を検討する。

■調査対象区域



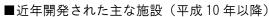
I. 中之島地区をはじめとする水辺の現況調査

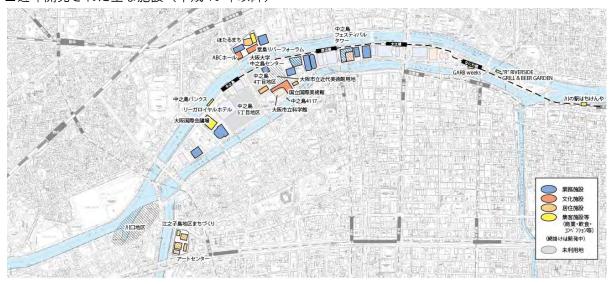
1. 中之島地区周辺の現況把握

中之島地区周辺の現況として、以下の特徴をあげることができる。

(1) 中之島西部エリアの国際・文化ゾーンとしての開発が進む

- ・平成20年に京阪中之島線が開通。中之島西部では、近年、オフィスビルの建て替え、再開発等が進む。大阪国際会議場、国立国際美術館のほか、ほたるまちに堂島リバーフォーラム、ABCホールが建設され、現在、中之島フェスティバルタワーが建設中であるなど、中之島西部周辺の国際・文化ゾーンとしての拠点整備が進む。
- ・中之島4丁目に予定されていた大阪市立近代美術館については、大阪府市都市魅力戦略会議 において、予定地の見直し等を含む構想の再検討が行われており、今後、方向性が示される 予定である。
- ・なお、木津川沿いの江之子島地区ではまちづくり事業が進行しており、旧大阪府立産業技術総合研究所(昭和13年竣工)の建物を改修し活用した大阪府立江之子島文化芸術創造センター(アートセンター)が、平成24年4月1日に開館予定となっている。





(2) 遊歩道・緑化・護岸整備など、親水性を高めた水辺空間の整備が進む

- ・八軒家浜船着場および大阪市中央卸売市場(本場)前の野田南緑道が完成し、中之島公園が 再整備された他、堂島川、土佐堀川の緑化・遊歩道整備や護岸修景が進行しており、中之島 を中心とした親水性を高めた水辺空間の整備が進んでいる。
- ・船着場については、八軒家浜船着場、福島港(ほたるまち港)、中央卸売市場前港、ぽんぽん 船船着場が新たに整備された他、ローズポートの移設、大阪国際会議場前港の再整備などを 含め、中之島周辺に9カ所が設置されている。
- ・また、水辺の休憩・案内・交流場所として、「川の駅」が中之島周辺の船着場や川沿いのレストランなど 11 カ所に設置されている。

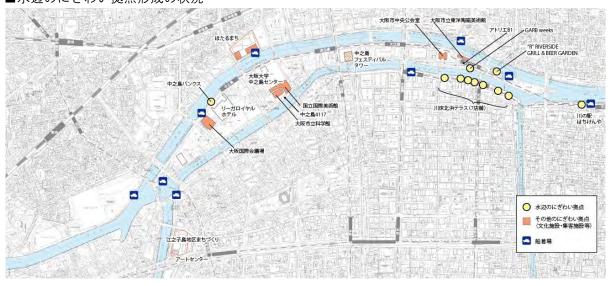
■水辺空間の整備状況



(3) カフェなど水辺のにぎわい拠点形成一中之島西部では活用促進が課題

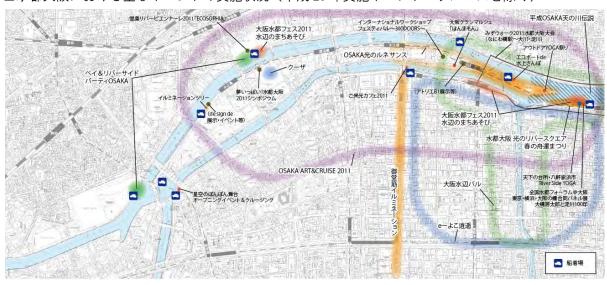
- ・中之島一帯では、平成20年8月に、河川敷地の占用に関する規制緩和(許可準則の特例措置、 社会実験)の特例区域指定**を受け、水辺のにぎわい拠点づくりが進められた。
- ・中之島東部エリアでは、八軒家浜の整備とともに、平成21年に水都大阪再生のシンボルとして川の駅「はちけんや」が建設され、現在、観光船案内所、情報発信施設、レストランとして利用されている。
- ・中之島公園には、春~秋の期間限定レストラン及び常設のカフェレストランが整備された。
- ・土佐堀川では、全国初の常設川床「北浜テラス」が、水都大阪 2009 での試行を経て設置されており、現在、7店舗が参加している。この設置にあたっては、運営組織である北浜水辺協議会が民間の任意団体として初めて河川敷の包括的専用者として許可を受け実施された。
- ・中之島西部エリアでは、平成22年に堂島川左岸に「中之島バンクス」が整備された。レストランや画廊などを核とした「水辺空間のにぎわい」を目指しているが、平成24年1月現在、9区画のうち4区画のみの利用となっている。
- ※平成23年度、許可準則の一部改正により特例措置が一般化。これまでの特例措置は平成24年3月末までとなり、拠点整備が行われた区域については、順次「都市・地域再生等利用区域」への切り替えが進められている。

■水辺のにぎわい拠点形成の状況



(4) 中之島東部エリアを中心とした水辺空間で多様なイベント開催

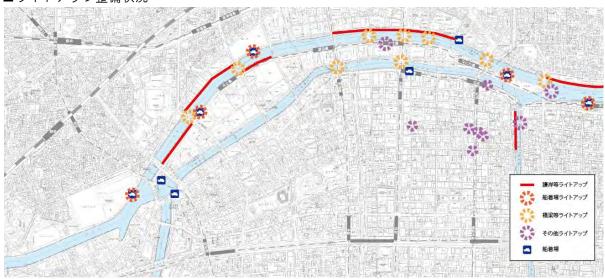
- ・水都大阪光のリバースクエア、平成 OSAKA 天の川伝説など、水都大阪に関連する様々なイベントの大部分が中之島東部エリアを中心に実施されている。
- ・特に、平成23年度には、バルめぐりとクルーズを組み合わせたイベントが実施されるようになり、河川沿いだけでなく周辺エリアを含む水都大阪の取り組みが拡がってきている。
- ・中之島西部エリアでは、河川沿い・湾岸6区が実施するベイ&リバーサイドパーティ OSAKA (以下、ベリパ)の際に、福島港、中央卸売市場前港でイベントが実施されている。
- ・中之島四丁目周辺の低未利用地は、OSAKA 光のルネサンスと連携した中之島アイススケート リンク (平成22年度) や、コルテオ、ルナ・レガーロ、クーザなどの舞台パフォーマンスの 特設会場など、暫定的なイベント会場として活用されている。
- ■水都大阪における主なイベントの実施状況(平成23年実施イベント・クルーズを除く)



(5) 橋梁、護岸、船着場のライトアップ整備の進行

・堂島川・土佐堀川では、橋梁、護岸、船着場のライトアップ整備が進められ、平成23年度で現段階の計画は全て整備が完了した。

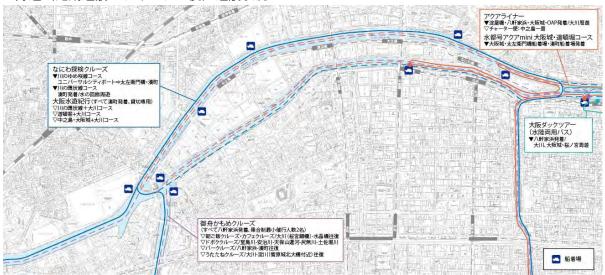
■ライトアップ整備状況



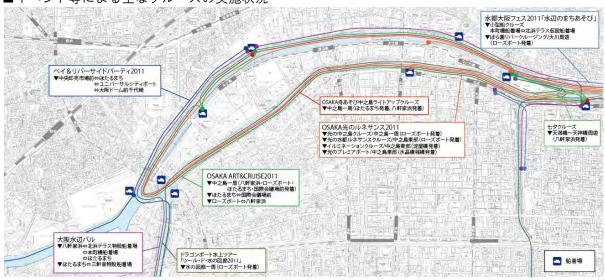
(6) 舟運一定期航路は八軒家浜・淀屋橋港発着

- ・中之島周辺で定期航路の発着場として利用されている船着場は淀屋橋港と八軒家浜船着場の 2つのみであり、その他の船着場については、イベント開催時や、舟運会社による企画クル ーズの利用に限られている。
- ・定期航路は、中之島東部から大川、大阪城を周遊するコースとなっており、中之島一周コースは、チャーター便や貸切専用などで実施されている。
- ・なにわ探検クルーズは、安治川から水の回廊を巡るコースを設定しているが、中之島周辺の 船着場は発着場として利用されていない。
- ・イベント時は、公共船着場のうち八軒家浜船着場、福島港(ほたるまち港)、ローズポートが多く利用されており、大阪国際会議場前港、中央卸売市場前港については、それぞれ OSAKA ART&CRUISE とベリパなど利用が限られている。
- ・また、イベント時には中之島一周コースや、移動交通手段として船着場を往復するコースが 設定されている点が特徴といえる。

■舟運(定期運航・チャーター便)運航状況



■イベント等による主なクルーズの実施状況



2. その他の水辺エリアの現況把握

中之島地区周辺以外の特徴的な水辺エリアとして、北加賀屋エリアおよび大川・桜之宮エリアの現況を見る。

(1) 北加賀屋エリア

旧名村造船所跡地を核とする北加賀屋エリアの特徴として、以下の2点があげられ、水辺の 観光拠点として一定の魅力がすでに形成されつつあることがわかる。

1) 水辺拠点ークリエイティブセンター大阪

- ・木津川河口に位置する名村造船所跡地を活用し、平成16年にアート複合スペース「クリエイティブセンター大阪(CCO)」が開設。施設所有者は千島土地㈱で、施設の管理運営をアートコンプレックスが担う。
- ・造船所跡地という産業遺産が持つポテンシャルと、公共施設と異なり利用にあたっての制約 が少なく屋内・屋外を自由に使える点などを活かし、様々なイベントやロケ等の会場として 利用されている。
- ・イベントによって、予約制のクルーズ運航や大阪ミナミエリアからの送迎バスの運行など、 都心部から離れている立地特性を考慮したアクセス面の工夫が行われている。
- ・なお、イベント時以外は閉鎖されているため、月 $1\sim2$ 回名村造船所跡地+周辺の案内ツアーが実施されている。
- ・平成19年に名村造船所跡地が経済産業省より近代化産業遺産に認定された。

2) クリエイティブセンター大阪周辺の空き店舗等をアートスペースとして活用

- ・名村造船所跡地の近代化産業遺産認定を契機に、地元自治会等との連携による地域活性化に 取り組みはじめ、地域に開かれたイベントが開催されている。
- ・さらに北加賀屋周辺で、高齢化等による千島土地㈱への土地の返還が増えたことから、それら不動産にアート関係者を誘致し、滞在制作や発表の拠点として活用してもらう「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」が打ち出された。(平成21年)
- ・古いアパートや空き家、店舗を入居者がリノベーションし、ギャラリーやレジデンス等として使用。現在、約20軒のアートスペースが点在し、若手アーティストやクリエイターが活動している。
- ・「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」による創造的なまちづくりへの挑戦に対して、施設所有者がメセナアワード 2011 のメセナ大賞を受賞した。

■クリエイティブセンター大阪の位置と施設の様子











(2) 大川・桜之宮エリア

大川・桜之宮エリアは、毛馬桜之宮公園、造幣局の桜など都市景観に優れたエリアであり、 OAP 港からは大阪城および八軒家浜、淀屋橋とつながる定期航路が設けられている。

近年、当エリアでは以下の2つの動きがあり、水辺の観光拠点として更なる整備が進められている。

1) 大阪ふれあいの水辺 ― 都心における水辺を体感できる拠点の整備

- ・都心部において府民が水辺に親しみ、くつろげる空間として、大川左岸の毛馬桜之宮公園貯 木場跡の水辺を活用した「大阪ふれあいの水辺づくり事業」を大阪府が実施。
- ・上流を「自然再生ゾーン」、下流を「ふれあいの水辺ゾーン」とし、下流には砂浜が整備され、 直接水にふれたり、水辺で憩える空間が創出された。
- ・オープニング時には、「オープニング 5 DAYS」を開催(平成 23 年 8 月 18~22 日)し、カヌー、パドルボートの体験・教室プログラム等、特色ある親水空間と立地特性を活かした多様なイベントプログラムが実施された。その後は一般に開放されている。

2) 泉布観地区 ― 歴史的景観を活かした水都大阪の魅力拠点の形成

- ・造幣寮(現造幣局)の応接所として建てられた泉布観は、明治4(1871)年に建設された大阪で現存する最古の洋風建築であり、国の重要文化財に指定されている。毎年3月下旬に一般公開が実施されており、現在は、市民からの寄附を受け、外観等の改修工事中である。
- ・泉布観に隣接する旧桜宮公会堂についても、正面玄関が国の重要文化財に指定されている。
- ・大阪市では、旧桜宮公会堂を含む周辺園地(ただし泉布観等を除く、以下「泉布観地区」)を、歴史的・文化的な価値の維持を図りながら、利用者に憩いと潤いをもたらす公園施設として有効活用するため、平成23年度に活用事業者を公募、選定した。
- ・旧桜宮公会堂については、ギャラリー、カフェ・レストラン、結婚式・宴会場、イベントホールとして活用することが提案されており、今後、整備が予定されている。

■大川・桜之宮エリアにおける魅力的な資源









写真提供:大阪市

3. 関連計画の位置づけ

(1)「水都大阪 水と光のまちづくり構想」(水都大阪推進委員会・平成23年8月策定)

- ・水と光のまちづくりを推進するにあたっての、オール大阪の共通理念を示す。目標年次は10 年後の平成32年である。
- ・今後の取り組みのひとつとして、「水都大阪の新しい顔となるシンボル空間の創出」を掲げて おり、その中で、中之島西部エリアを、水都大阪の資源が集中し重点区域として検討を開始 するエリアとして位置づけている。
- ・大阪府では、水と光のまちづくりの推進として、中之島西部エリアの活性化のシンボルとな る空間を創出するための基礎調査を平成24年度より実施する予定である。
- ■水都大阪の新しい顔となるシンボル空間対象エリア



(2)「大阪市観光振興戦略」(大阪市・平成23年3月策定、同11月一部改定)

- アジアからの訪日観光客を主要ターゲットとした観光振 興戦略を示す。目標年次は平成32年である。
- ・特に取り組む3つのエリアの1つに、中之島公園を中心 とした水と光の回廊エリアを位置づけており、当エリア での取り組みとして、舟運活性化に向けた中央卸売市場 前港の有効活用、大阪港へ繋がるサンセットディナーク ルーズ等を挙げる。 ■舟運活性化に向けた中央卸売市場前港の有効活用イメージ



(3)「千客万来都市 OSAKA プラン」(大阪商工会議所・平成 22 年 12 月策定)

- ・大阪ブランド・関西ブランドの構築による千客万来都市の創造を目指し、平成23年度~平成 25年度の3ヶ年の取り組みを示す。
- ・旅遊都市化推進プロジェクト(アジアからのインバウンド促進による経済活性化)において、 大阪城を核とした観光振興と合わせて、中之島を中心とした水都大阪の魅力向上を掲げる。
- ・プロジェクトにおける取り組みとして、水辺の民間事業者による活用、大阪市中央卸売市場 (本場)、食をはじめとする地域資源や MICE との連携による新たな観光クルーズ商品の開発 促進等を提案している。

4. 現況からみる新たな観光拠点候補

- 1.~3.で把握した調査結果より、中之島地区周辺の現況は次の通り整理できる。
- ・水辺の緑化、遊歩道整備など親水空間の整備は中之島周辺一帯で確実に進んでいる。
- ・中之島東部では、八軒家浜、中之島公園等を中心に、日常の賑わい拠点となる飲食店等が立地、 様々なイベントの開催など、ソフト面のコンテンツも定着しつつある。
- ・一方中之島西部では、船着場が整備されたもののイベント時の舟運利用にとどまっている他、 中之島バンクスではテナント入居が一部にとどまるなど、水辺の基盤整備は進んでいるものの、 ソフト面のコンテンツが十分に開発されていない。
- ・中之島西部エリアは、今後、中之島4・5丁目地区および川口地区(富島税関跡)など、面的なまちづくりが検討されており、「水と光のまちづくり構想」においても、水都大阪の新たなシンボル空間の重点区域として位置づけられている。
- ・特に、インバウンドを含む観光戦略の視点からは、'食の拠点'としての役割や、臨海部と'水の回廊'の結節点という立地から、大阪市中央卸売市場(本場)のもつポテンシャルは高いといえる。

以上より水都大阪の新たな観光拠点候補地として、

大阪市中央卸売市場(本場) を設定する。

Ⅱ. 新たな観光拠点の調査検討

1. 大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域の特性

水都大阪の新たな観光拠点として、ポテンシャルが高いと考えられる大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域の特性を、以下の視点から整理する。なお、対象範囲は、同市場を中心とする概ね1km圏域とする。

(1) 大阪市中央卸売市場(本場) 周辺地域の性格

大阪市中央卸売市場(本場)を含め、同市場周辺地域は、主に4つのエリアに分類できる。

①昔ながらの長屋や路地、地蔵などが残る下町風情漂う野田地区

- ・戦災を免れた野田地区には、昔ながらの長屋と路地の入り組んだ街並みが残る。
- 「野田まち物語」によって、ななとこまいりの紹介など活発なまちの魅力プロモーション活動 が展開されている。
- ・また、OSAKA 旅めがね、大阪あそ歩によるまち歩きツアーコースが設定されている。

②大阪発展の礎となった旧居留地等歴史的資源が残る川口地区

- ・大阪税関発祥の地である富島や旧川口居留地、大阪府政発祥の地である江之子島など、大阪 発展の礎となった地区である。
- ・平成23年度に富島入堀が整備され、今後、住友倉庫周辺の再開発等が検討されている。江之子島においても、アートセンターを含むまちづくり整備が進められている。

③国際・文化ゾーンとしての整備が進む中之島西部エリア

- ・大阪国際会議場、国立国際美術館のほか、高層オフィスビル等開発が進み、今後、中之島4・ 5丁目地区の開発が検討されている。
- ・中之島の西端にかけては、中之島西公園が立地し、西の先端は臨海部を望むシンボル空間と しての活用が期待される。

④大阪市中央卸売市場(本場)及び安治川右岸の水辺空間

- ・大阪市中央卸売市場(本場)が面する安治川右岸には、野田南緑道と中央卸売市場前港が平成22年に整備されている。同港は安治川と木津川、堂島川、土佐堀川の合流地点に立地しており、臨海部と"水の回廊"をつなぐ重要な場所に立地する。
- ・中央卸売市場前港及び野田南緑道は、ベリパ 2010 及びベリパ 2011 において会場のひとつとなり、飲食販売やクルーズ船の発着等で活用されている。

■周辺地域の性格とまちづくり活動状況



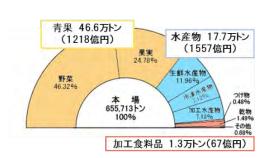
(2) 大阪市中央卸売市場(本場)の概要

1) 位置づけ

- ・卸売市場法に基づく中央卸売市場であり、魚食離れ等によって鮮魚の取扱量は減少している ものの、東京都築地市場に次ぐ年間取扱高国内第2位の中央卸売市場として、大阪市内にと どまらず、広域を対象とした食の流通拠点として機能している。
- ・青果、水産物、加工食料品を取り扱っており、せりが集中する早朝(午前4時から午前8時頃まで)がもっとも人出が多く、活気の溢れる時間となっている。

■種類別取扱高(平成19年中)

■地域別搬出量(東部市場含む)(平成22.10.2調査)





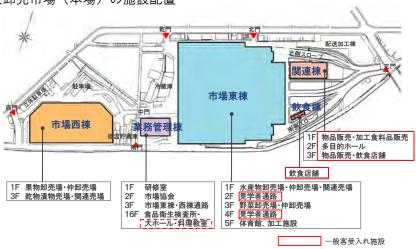
■大阪市中央卸売市場(本場) せりの開始時刻

22 / st to	1 - 4/ -	± = (== ±)	±=/=±\
開始時刻	水産物部	青果(野菜)	青果(果実)
午前 4時	ふぐ		
4 時 15 分	太物(まぐろ等)		
4 時 40 分			
4 時 50 分	_		
5 時		だいこん、かぶら、松茸、れんこん	
5 時 10 分	生鮮、	洋野菜、促成物、はくさい、キャベツ、つま物	
5 時 20 分	加工水産物全般	洋人参、梅、菌茸類(椎茸、シメジ、エノキ等)	
5 時 30 分		ほうれん草、青葱、白葱、分葱、ふき	
5 時 45 分		一般物(胡瓜、トマト、なす、ピーマン)豆類	
5 時 50 分			アムス・アンデス・他メロン、みかん、苺、ぶどう
6 時	_		桜桃
6 時 20 分			アレキ(岡山) (7 月~8 月中旬)
6 時 40 分			メロン(静岡、高知) (7月~8月中旬)
8 時 30 分	節類		栗
8 時 50 分	(月・火・木・土のみ)	ばれいしょ、たまねぎ	
9 時			りんご、みかん、なし、その他柑橘類
9 時 40 分		ごぼう、かんしょ、里芋、海老芋、長芋、	
10 時	_	かぼちゃ、にんにく、わさび、すだち、	西瓜、小玉西瓜
10 時 30 分		生姜、銀杏	朝取り苺(春季)

2) 施設概要

- ・重層構造の市場は全国で本市場のみであり、市場施設規模は日本一である。市場内は、市場 東棟、西棟、業務管理棟、関連棟、飲食棟の5つから構成される。
- ・市場東棟には2階、4階に見学者通路が設置されているほか、関連棟や飲食棟は一般客の受け入れを行っている。
- ・また、業務管理棟の大ホール、料理教室、また、関連棟の多目的ホールなどは、見学者向け の料理教室の開催や説明場所等として利用されている。
- ・多目的ホールについては、平均稼働率が 9.8 回/月 (平成 22 年度) と十分に利用されていない実態がある。

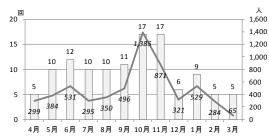
■大阪市中央卸売市場(本場)の施設配置



■関連棟2階多目的ホールの概要と利用状況

		利用料	·金
	面積	半日(午前 9-13 ·午後 13-17)	終日 9-17
全体	953 m²	20,000	40,000
北エリア	532 m²	13,000	26,000
南エリア	421 m²	10,000	20,000

- ・市場協会会員でない本場関係者の使用は2割増
- ・本場関係者でない者が使用するときは3割増
- ・時間外や休日に使用するときは、上記の更に 2 割増



- ●年間利用回数 (平成 22 年度):計 117 回 5,810 人
- ●主な利用時間帯:午前中
- ●主な利用用途:広報ビデオ鑑賞、反省会・休憩場所等

3) 交通条件

〇公共交通

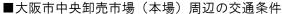
- ・鉄道最寄駅として地下鉄千日前線玉川駅、JR大阪環状線野田駅、京阪中之島線中之島駅、地下鉄千日前線・中央線阿波座駅があるが、いずれも徒歩10分以上の距離となっている。また、最寄駅から市場までの経路に案内掲示等はなく、来場者を意識したアクセスルート整備はされていない。
- ・市営バスの「中央市場前」停留所が正門近辺に立地しており、大正区の鶴町四丁目と野田阪 神前をつなぐ90系統が、日中は2~3本/時運航している。
- ・過去に路線バスの市場内乗り入れが計画されたが、バスの乗り入れには場内に道路交通法を 適用する必要があり、市場内の交通のマヒが懸念され断念した経緯がある。一方、東京都築 地市場では都バスの停留所が市場内に設置されている。

○車

- ・車による入出場が最も多く、一日あたり12,000台以上となっている。
- ・市場内には、市場関係者用駐車場が整備されている一方、一般来場者用の駐車スペースは確保されていない。業務管理棟前に観光バスを2台程度駐車可能なスペースがある。
- ・また、阪神高速3号神戸線の中之島西出入口が中央卸売市場近くに位置する。

〇舟運

・安治川護岸に中央卸売市場前港が整備されたが、ベリパなどイベント時以外は定期的な舟の 運航はない。





■大阪市中央卸売市場(本場)の入出場数(出典:大阪市統計資料 本場の入出場調査)

(調査日:平成21年10月16日 正午~17日 正午)

步行者	二輪車	自動車(貨物車· 乗用車等計)
2,895 人	4,505 台	12,310 台

(3) 開かれた市場づくりの取り組み

1) 市場見学の受け入れ

- ・市民に親しまれる開かれた市場づくりの取り組みとして、市場見学(社会見学等)、市場体験 ツアー(市場見学と料理教室をセットにしたツアー)が、(社)大阪市中央卸売市場本場市場 協会により実施されている。
- ・市場見学は、年間 300 回以上、約 13,500 人が参加する。主に、大阪市内・府内の学校による 社会見学が多く、府外からの教育旅行等のニーズには十分対応できていない。
- ・市場見学は午前9時開始のため、同時間帯に実施している果物せりと、水産・青果仲卸店舗や関連棟商品売場の見学が中心となる。
- ・また、参加人数30名以上で依頼があった場合には、マグロ解体ショーを実施している。
- ・その他、旅行会社と組合等とのタイアップによる一般見学ツアーの受け入れや仕入れ体験会 を年数回実施するが、いずれも単発イベントとなっている。要因としては、受入れに伴う安 全性の確保や、市場協会及び受け入れる組合等への負担等があげられる。

■市場見学・市場体験ツアーの概要

	市場見学(社会見学)	市場体験ツアー	マグロ解体ショー等
①主催者	社団法人 大阪市中央卸売市場本場市場協会	同左	同左
②実施時期	月曜日~土曜日(祝日、臨時休場日を 除く)·事前申込制	年5回·事前申込制	随時
③受入人数	1 グループ 5 人~50 人まで(1 名も可)	各回 40 人募集	参加人数 30 名以上で解体依頼
④参加費用	無料	有料(800~1,000円:材料費)	
⑤ガイド	市場職員·市 OB(4~5 名)	同左	同左
⑥主な 見学内容	- 8 時 30 分 集合 - 9 時~ 果物セリ - 9 時 30 分~ 水産・青果仲卸店舗見学 - 10 時~ 関連棟商品売場見学 - 11 時~ 広報ビデオ鑑賞 - 11 時 30 分 終了	- 8 時 30 分 集合 - 9 時~ 果物セリ - 9 時 30 分~ 水産・青果仲卸店舗見学 - 10 時~ 関連棟商品売場見学 - 10 時 30 分~料理教室 - 14 時 終了	市場見学内で実施
⑦実施実績	・実施回数計 337 回(平成 22 年度) Blook	・年間実施回数(平成23年度)計5回 6月(男性・女性・夫婦対象) 8月(親子対象) 10月(男性対象) 2月(親子対象) 2月(親子対象) ・年間参加人数(平成23年度) 計200人(40人×5回) ・主な参加者属性 大阪市内・府内より申込 ・主な募集方法・申込方法 ロコミ(リピーター)、電話、ホームページ	・年間実施回数(平成 22 年度) 計 89 回(うち学生対象 26 回) 14 13 14 14 17 10 6 8 7 6 6 6 6 6 7 7 8 8 9 月 10月11月12月 1月 2月 3月 10 55学生対象

2) 市場まつり等の開催

- ・本場開設 70 周年(市場棟完成記念)、75 周年、80 周年を記念して、5年に一度、市場まつり を開催している。
- ・開設80周年となる平成23年度は11月27日(日)に実施され、約38,000人が来場した。
- ・水産卸売場及び関連棟前の駐車場に70ブースを設置し、生鮮食料品の販売、屋台での食べ物販売、イベントステージでのマグロ解体ショーや青果物オークション等を実施した。
- ・主催は、市場協会、組合等による大阪市中央卸売市場本場開設80周年記念事業委員会であり、 210人体制で運営を行い、経費約2,000万円は市場協会の積立と大阪市が負担している。

■市場まつりプログラムと当日の様子











メインステージでのまぐろ解体ショー

鮮魚販売

飲食・物販ブース

会場全体

3) 他卸売市場の状況

①東京都築地市場

- ・東京都築地市場の開かれた市場づくりに関連する特徴は以下の点である。
 - ・見学ルールを制定(9時以降のみ、5人以内のグループ)し、一般客の入場を受入れ。
 - ・市場開設者主催の冷凍まぐろせり見学を実施。先着順、早朝の実施だが、始発電車での来場も可能な時間であることもあり、ほぼ毎回定員以上集合。
 - ・社会見学ツアーは学校等に限定(年間約7,000人)。主に他府県からの修学旅行が参加。
 - ・民間 NPO (市場開設者とは無関係) が市場見学ツアーを主催。見学ルールを遵守したツアーを実施。
 - ・300 店舗以上が集積する場外市場が隣接。場内の魚河岸横丁と合わせて観光客の重要な受け皿。
- ・大阪市中央卸売市場(本場)と比較すると、東京都築地市場では市場見学ツアーの受入れを 学校等に限定する一方、見学ルールの制定による一般客の入場受け入れや、冷凍まぐろせり 見学の実施、民間 NPO によるツアー実施等によって、市場開設者主催の市場見学ツアーで受 入れきれない見学ニーズに対応できている。

- ・また、場外市場など、市場の雰囲気を楽しむことができる賑わい機能が隣接していることが、 観光客を惹きつける魅力のひとつとなっている。
 - ■東京都築地市場 場内案内図

(立入禁止区域の明示)



■東京都築地市場

5名以内での見学を促す張り紙



■東京都築地市場における見学ツアーの概要

	せり見学	市場見学(社会見学)	築地魚河岸ガイドツアー
①主催者	東京都	東京都	NPO ゴールデンアカデミー
②実施時期	月曜日から土曜日(祝日、休場日、年末	月曜日から金曜日・事前申込制	月曜日から土曜日(休場日を除く)・事前
	年始(12/1~1/28)を除く)・事前申込		申込制
0.7.	なし		
③受入人数	先着 60 人×2 組	原則1団体45人(対象:小·中·高団体)	1 グループ 4 人以内
0.01			(ガ/ド入れて 5 人以内)
④参加費用	無料	無料	5,000 円~
⑤ガイド	なし、ガードマン 7 名が誘導	東京都非常勤職員	通訳案内士やツアーコンダクター資格保
		(3 名、見学者 10~15 人に1名つく)	有者など 30 名
⑥主な	・5 時~ 受付開始、マップを配布	9:00~15:00 の間に実施	・9 時 築地ツアーデスク集合
見学内容	青いベスト着用	(小学生低学年は原則午後、	ビデオで築地の説明
	・5 時 25 分~ 前半せり場に移動・見学	その他は午前に実施)	築地場内の見学
	·5 時 50 分 前半終了(海幸橋門まで	・ビデオ上映(20 分)	(仲卸業者 6~7 業者との
	誘導し解散)	·市場見学(1 時間程度)	交流、買出し体験)
	・5 時 50 分~ 後半せり場に移動・見学		築地場外市場の見学
	·6 時 15 分 後半終了		·11 時 解散
⑦実施実績	●参加人数	●年間受入件数(平成22年度)	●参加人数 年間 1900 人程度
	・震災前は 70 人×2 組実施。 定員オー	計 314 件、約 7,000 人	・ガイド 30 名で対応できる範囲で実施
	バーで断ることが多かった。	・非常勤職員3名で対応できる範囲内で	●主な参加者属性
	・震災後、6~7 月頃から復調。ほぼ毎	実施	·関東在住者が圧倒的多数。
	日定員前後が参加。	●主な参加者属性	・当初は 60 代前後が多かったが、現在
	●主な参加者属性	・全国各地からの修学旅行	は子どもから年配まで幅広く参加
	・欧米人が多い	・市場が立地する中央区内の学校からの	・欧米人(日本人が海外の友人を案内)
	・夏休み等は日本人客も増加	社会見学	

■大阪市中央卸売市場(本場)と東京都築地市場における市場見学受入れ状況の比較

大阪市中央卸売市場(本場)		東京都築地市場
○見学ルール等は設定されていない	一般見学者の	○多数の観光客が押し寄せるため、個別入場ルールを策定
○見学ルートが設けられているが、十分に広報されていない	入場	○9 時以降のみ見学可、場内は5人以内のグループで
なし		○市場開設者主催の冷凍まぐろせり見学実施
	せり見学	○5:00~、5:50~の2回、各回60人、決められたエリア内
		での見学、説明なし、多国籍の参加、ガードマン7人配置
○市場協会主催のツアーを実施		○市場開設者が学校の社会見学ツアー受入れ
·市場見学ツアー(9:00~11:30、果物せり·仲卸店見学な		○平成 22 年度 314 回、約 7,000 人
ど、22 年度:337 回、13,475 人、各回 50 人まで)		○非常勤職員 3 人で対応、受入れ人数に限界
・市場体験ツアー(9:00~14:00、市場見学+料理教室、	社会見学	
23 年度:50 人×4 回=200 人)	ツアー	
○市場 OB 等 4~5 人で対応		
○受入人数に限界(学校や PTA、地域団体の受入れがほと		
んど)		
○民間事業者や NPO によるツアーはあまり実施されず		○NPO(市場開設者とは無関係)主催のツアーが実施される
	観光客向けツアー	○ガイドが馴染の店舗を案内し飲食買物を行う、30 人/日
		程度が限界、場内場外を案内
○飲食店、物販店の集積がない(分散、店舗数が少ない)	場内賑わい機能	○飲食店、物販店が、「魚河岸横丁」として1ェリアに集積
○不明	場内人気エリア	○水産売場
○お寿司(昼食時に行列)	場内人気店舗	〇お寿司(朝から夕方まで行列)
○場外の集積がない	場外賑わい機能	○300 店舗以上の集積
	かのフト州以イフし、竹茂月日	○大多数の観光客は場外で市場の雰囲気を楽しむ

②京阪神の卸売市場

- ・京阪神の卸売市場においては、大阪市中央卸売市場(本場)が実施するような経常的な市場 見学の受入れは実施されていないが、生鮮食料品の消費拡大や市場機能の周知等を目的とし た一般客向け体験販売(朝市等)の定期開催や、場外賑わい機能の整備検討など、開かれた 市場づくりの取り組みが進んでいる。
- ・特に、大阪木津地方卸売市場では、「木津の朝市」を月2回開催しているほか、週1回、観光 客向けのガイドツアーが実施されており、仲卸店舗による試食の提供など、積極的な一般客 の受け入れが行われている。
- ・また、京都市中央卸売市場では、毎月1回市民向けの「食彩市」を開催しているほか、場内 賑わい機能として、「すし棟」及び「京の食文化普及啓発施設」の設置を予定している。合わ せて、同市場の南に位置する梅小路公園では京都水族館の開業が予定されており、観光客等 の積極的な集客による、市場を核とした地域の賑わいづくりが推進されている。

■京阪神の卸売市場における開かれた市場づくりの取り組み内容

卸売市場	取り組み内容(●:実施中、○:予定・計画)			
京都市中央卸売市場	一般見学者の入場(定期的)	●市民向け食彩市(月1回)の開催 ・京都市・京都市中央卸売市場協会が主催 ・生鮮食料品等の消費拡大を目的に、平成23年4月より第1土曜日に「京都市中央卸売市場第一市場 市民感謝デー京朱雀市場食彩市」を実施 ・水産仲卸店舗、関連事業者・総合食品店舗が参加(青果仲卸店舗なし) ・イベントコーナーでのまぐる解体ショーなど開催		
	場内賑わい機能	○市場内に「すし棟」設置(平成 24 年 6 月予定) ・京都全魚類卸協同組合、京都府寿司生活衛生同業組合による共同設置・運営・市場で流通する鮮魚の提供、若手の寿司職人の育成も兼ねた市場の PR を行う・施設計画・・・2 階建て(延床面積約 320 ㎡) 1 階に回転すし(約 35 席)、2 階に大広間(約 80 席) ○市場内に「京の食文化普及啓発施設」設置(平成 24 年秋予定)・京都市が設置・運営・資料・展示室、調理実習室を整備		
	場外賑わい機能	○京都水族館整備(平成 24 年 3 月 14 日開業)●梅小路蒸気機関車館○(仮称)京都鉄道博物館整備(計画)(すべて市場近隣の梅小路公園内)		
	その他特徴的な取組み	●食の海援隊・陸援隊(京都市中央卸売市場会員)事業 ・食に関する知識を養い、生産者や市場関係者とともに本来の「食」のあり方を考える会員制度 ・市場の見学(親子)、産地の交流・視察等、講演会、食材選び方教室、料理教室、子ども料理教室 ●夏まつり(年1回)の開催 ●鍋まつり(年1回)の開催		
神戸市中央卸売市場本場	場外賑わい機能	○市場跡地への食文化関連機能を核とした集客・商業施設誘致事業 ・市場跡地(3.7ha)を活用し、中央卸売市場と兵庫運河に隣接する立地特性を 活かした集客・商業施設を誘致 ・食文化関連機能の導入を条件に、事業コンペによる事業者選定を実施(平成 24 年 6 月決定予定)		
	その他特徴的な取組み	●料理教室の開催(平成 23 年度計 30 回) ・市場運営会社が主催 ・市場で流通する新鮮な食材を利用し、魚介コース、青果コース、キッズキッチン (子ども対象)コース別、食材別など、さまざまなコースの料理教室を実施		
大阪木津 地方卸売市場	一般見学者の入場(定期的)	 ●一般向け木津の朝市(月2回)の開催 ・大阪木津卸売市場市場協会が主催。企画運営を全て市場協会事務局が担う ・市場機能の周知、食育、地産地消(大阪産取扱)を目的に、毎月第2・最終土曜日に「絆・築く木津の朝市」を実施 ・まぐろ解体ショーや大試食会などのイベントを開催 		
	観光客向けツアー	●市場内のガイドソアー(週 1 回)受入れ ・市場協会の協力のもと JTB が実施 ・同社利用者対象に、平成 23 年度より毎週土曜日に「大阪の食のええとこどり木 津市場つまみ食いガイドツアー」を実施 ・予約・参加費不要のツアーとし、ガイドの案内で仲卸店舗をめぐり試食や仕入れ を体験		
	場外賑わい機能	○市場近辺に「すし横丁」建設(計画) ・木津市場を訪れる団体客の食事場所の確保 ・阪神高速道路高架下の活用を検討		

【参考】海外卸売市場の事例

①韓国 可楽洞農水産物総合卸売市場

- 韓国最大規模の卸売総合市場。
- ・青果、畜産、水産市場があり、中でも巨大な青果市場内のニンニク、唐辛子専門売場が人気。 一般客も自由に出入りできるほか、一般向けの小売店なども併設される。
- ・市場の隣にはブランドアウトレットがあり、観光客も多く訪れる。1日約13万人利用。

■市場内の売場



■小売マート





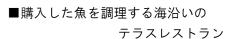
■市場隣のブランドアウトレット

出典: ソウルナビ(http://www.seoulnavi.com/shop/1421/) LIVExSEOL(http://www.livexseoul.com/info/info_view.htm?sec=3&seq=19)

②オーストラリア シドニーフィッシュマーケット

- ・オーストラリア最大の鮮魚卸売り・小売市場。卸売市場としては南半球最大規模。
- ・仲買業者向けの競売施設のほか、一般客用レストラン、小売施設が 20 店舗以上あり、一般市 民や観光客でにぎわう。
- ・レストランでは、購入した魚介類をその場で調理する店も多い。オークション見学や料理教 室等のイベントも多く、観光に力を入れている。

■市場内の売場









出典: JETRO(http://www.jetro.go.jp/world/oceania/au/foods/trends/1012002.html)

③インドネシア・バリ島 バドゥン市場

- ・バリ島最大の市場。卸売機能もあり。
- ・食料品から日用雑貨まで幅広く取り扱う。
- ・24時間営業しており、朝は鮮魚、夜は屋台など一日中賑わう。通りには青空市場が並び、市 場の奥には日用雑貨を取り扱う建物がある。駐車場なども整備されている。

■露店の並ぶ通り





■建物内部の小売店



出典: バリ島.com(http://www.balitou.com/spot/pasarbadung/pasarbadung.html) バリ島ナビ(http://bali.navi.com/shop/199/)

4) 市民ニーズの把握

・ベリパ2011 (平成23年10月10日開催)及び市場まつり (平成23年11月27日開催)において実施した来場者アンケートより、市民ニーズとして以下の2点が挙げられる。なお、いずれも来場者は福島区およびその他大阪市内居住者が多数を占めている。 (市場まつりにおけるアンケートは、実行委員会実施結果に基づく)

①「市場ならでは」の食事、生鮮食品販売、豊富な品揃えを期待

- ・ベリパ 2011 アンケート調査での聞き取りでは、開かれた市場づくりとして、市場の自由な見学、市場での買出し、イベントによる「市場ならでは」の出し物を希望する意見が多くきかれた。
- ・市場まつりにおいて、出し物でもっとも評価が高かったものは「生鮮食料品の販売」となっており、特に水産物の販売に対する評価が高い。また、今後市場まつりに期待するものとして、「豊富な品揃え」、「廉価販売」が選択されている。

②年数回~月1回程度、水辺空間での定期的なイベントやマーケット開催を期待

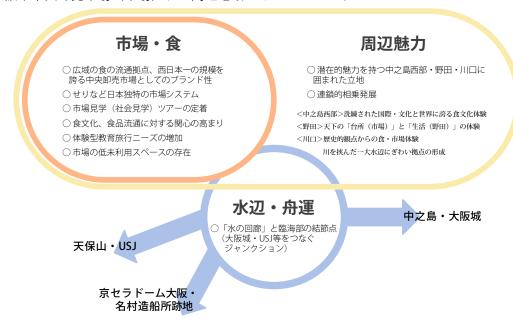
- ・中央卸売市場前港周辺の水辺空間の使い方として、定期的なイベントやマーケットの開催を期待する意見が多く、開催回数としては年数回~月1回程度が最も多かった。また、「市場ならではの美味しい食事」を楽しみたいとの意見が多く、市場に隣接する水辺空間においても、市場と関連した楽しみが期待されていることがわかる。
- ・また、中央卸売市場前港からのクルーズを望む意見も3割あった。

2. 大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域のポテンシャルと課題

(1) 観光拠点としてのポテンシャル

大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域の持つ観光拠点としてのポテンシャルは、以下のように整理することができる。

■大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域のもつポテンシャル



①市場・食

- ・大阪市中央卸売市場(本場)は、広域の食の流通拠点として西日本一の規模を誇っており、「中央卸売市場」としてのブランド性を持っている。また、中央卸売市場の本来機能の維持、 発展には、知名度の向上、食の安全・安心施策のPRなど、更なる"食の拠点"としてのブランド力向上が求められる。
- ・せりは日本独特の市場システムであり、東京都築地市場ではまぐろせり見学者の大部分が外国人旅行者であるなど、せり見学、模擬せり体験等は、インバウンドを含む幅広い対象向けの観光コンテンツとして期待できる。
- ・現在、市場協会が実施している市場見学(社会見学)ツアーは、年間13,000人以上が参加しており、一定の需要を確保できている。一方で、現在の受入れ規模が、市場協会独自で運営できる市場見学ツアーの限界となっている。
- ・近年、食文化、食品流通に対する関心が高まっており、「食育」施策の一端を担うことは、食 を取り扱う卸売市場に求められる役割のひとつである。また、体験型教育旅行のニーズが増 加していることから、大阪における教育旅行誘致の受け皿として期待できる。
- ・市場内には、関連棟の多目的スペースなど、低未利用スペースが存在しており、観光拠点化 にあたって活かせる可能性がある。

②周辺魅力

・野田地区では野田まち物語によるまち歩きマップの作成など、来街者を受け入れる素地ができているほか、川口地区、中之島西部エリアにおいても活性化に向けた開発整備が検討され

ており、それぞれが観光拠点としての潜在的可能性を持つ地域である。

・大阪市中央卸売市場(本場)は、野田地区、川口地区、中之島西部エリアの3つの個性ある 地域に囲まれており、同市場と周辺地域の組み合わせによる観光拠点としての相乗発展が期 待される。

③水辺·舟運

- ・「水の回廊」と臨海部をつなぐ水上アクセス観光メニュー開発は、水都大阪まちづくり推進の 取り組みのひとつに挙げられている。大阪市中央卸売市場(本場)は「水の回廊」と臨海部 の結節点に立地しており、中央卸売市場前港は、「水の回廊」と臨海部のジャンクションとし て最適の立地である。
- ・中央卸売市場前港を活用することによって、大阪城や天保山、USJ、名村造船所跡地など、大阪の主要観光拠点を舟運でつなぐことが可能となり、大阪市中央卸売市場(本場)を主要観光ルートの中に位置付けることができる。

(2) 観光拠点化に向けた課題

観光拠点化に向け、取り組むべき課題として、以下の点が指摘できる。

①市場本来機能の担保

- ・大阪市中央卸売市場(本場)の観光拠点化において、卸売市場としての本来機能及び市場の 安全安心を担保することは最優先事項であり、市場関係者の中には、安易な一般見学者の受 け入れやイベント開催によるトラブルの発生や信頼の低下を懸念する声もある。
- ・観光拠点化に向けた取り組み手法の検討と並行して、観光客に対する見学ルールの制定や民間事業者等と連携した取り組み体制の確立など、市場関係者が安心して本来業務と見学者の受入れができるスキームを築く必要がある。

②交通アクセスの改善

- ・大阪市中央卸売市場(本場)は、鉄道最寄駅からいずれも徒歩 10 分以上の距離があるほか、 一般来場者が利用できる駐車場がなく、観光バスが利用できる駐車スペースはわずかとなっ ているなど、交通アクセスの不便さがネックとなっている。
- ・市場に直接アクセスできる交通手段として、中央卸売市場前港を活用した舟運が有効と考えられる。「水の回廊」と臨海部の結節点に位置している中央卸売市場前港の立地を活かし、舟 運による定期的な水上アクセスを確保する必要がある。

③観光客の受け皿確保

- ・大阪市中央卸売市場(本場)には市場内外に飲食店、物販等の集積が少なく、市場見学以外に、観光客の受け皿となる施設や機能がない。
- ・東京都築地市場では、市場内の魚河岸横丁に加えて、市場に隣接して300店舗以上の場外市場が形成されていることが観光客の重要な受け皿となっていることから、安治川対岸の川口地区や水辺、市場関連棟等を利用した飲食施設等の充実、場外の賑わい形成が求められる。

④周辺のまちと調和した空間づくり

・大阪市中央卸売市場(本場)は、周辺のまちに閉鎖的な施設配置となっており、観光拠点化 を図るためには、アクセスのしやすさ、施設の開放性、周辺のまちと調和した建物のしつら えや、デザインに配慮した空間づくりが求められる。

Ⅲ. 大阪市中央卸売市場(本場)とその周辺地域の観光拠点化に向けた取り組み

1. 目指すべき目標像と取り組み

(1) 目標像

大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域における観光拠点化に向けた目標像を次のように 設定する。

- ◎ 西日本一の規模を誇る"食の拠点"の発信
- ◎ 潜在的魅力をもつ周辺地域、舟運との連携による相乗的な魅力創造

なお、大阪市中央卸売市場(本場)周辺の現況・特性を踏まえ、同市場を中心に、徒歩で回遊できる概ね500m圏域を、観光拠点化に向けた取り組みの対象エリアとする。

■観光拠点化に向けた取り組み対象エリア



(2) 観光拠点化に向けた取り組み分野

目標像の実現に向けた取り組み分野として、<1>市場内外の賑わい形成、<2>市場見学ツアーの充実、<3>周辺地域との連携、<4>目標像の可視化の4つの取り組み分野を設定する。

く取り組み分野> く位置づけ> (1) 市場内外の賑わい形成 ・「市場ならでは」を期待する来場者の受け皿・常設または定期的・継続的に店舗を設置することによる、にぎわいの場としての定着 (2) 市場見学ツアーの充実 ・大阪市中央卸売市場(本場)の"食の拠点"としての全国的な知名度向上、食や食品流通への関心向上、周知・PR (3) 周辺地域との連携 ・大阪主要観光拠点とのアクセス確保・交通アクセスの欠点を魅力に転換・最寄駅のある周辺地域から市場をめぐるストーリーの構築 (4) 目標像の可視化 ・目標像、〈1〉~〈3〉の各取組の浸透、PR

〈取組1〉市場内外の賑わい形成

「市場ならでは」を期待する来場者の受け皿を整備する。

一時的なイベントではなく、常設または定期的・継続的に店舗を設置することによって、に ぎわいの場としての定着を図る。

①市場前の水辺空間、市場内の低利用スペースを活用した飲食店舗等の設置

- ・民間活力を活用し、野田南緑道及び中央卸売市場前港の水辺空間に、生鮮食料品の販売や市場の食材を用いた飲食の提供など、卸売市場の特性を疑似体験できる賑わい拠点を整備し、「市場ならでは」を期待する来場者の受け皿を確保する。
- ・将来的には、関連棟の多目的スペースなど、大阪市中央卸売市場(本場)内の低未利用スペースの活用による賑わい拠点の拡大を検討する。

《取組にあたっての考慮事項》

- ・河川法に基づく水辺空間の占用許可の取得
- ・都市公園法などによる活用における制約条件への対応
- ・継続的に実施できる体制及び事業スキームづくり
- ・市場調査及び実証実験等を通じた利用者ニーズの把握
- ・食品衛生法による魚、肉、乳製品等の屋外販売に関する制約条件への対応

〈取組2〉市場見学ツアーの充実

大阪市中央卸売市場(本場)の"食の拠点"としての全国的な知名度向上および食や食品物流への関心向上を図るため、中央卸売市場機能の周知・PRを図る。

①市場内部の"特別感"を堪能できる観光客向けツアーの実施

- ・中央卸売市場機能の周知・PR を主目的とした上で、まぐろをはじめとする鮮魚の早朝せり見 学など、観光客が期待する「非日常的な市場空間の体験」に応える観光ツアー商品の開発を 行い、新たな見学需要を掘り起こす。
- ・特に、早朝の市場見学ツアーの実施は、大阪近郊への前泊が必要となることから、観光客の 大阪滞在を促す手段のひとつとしても活用できる。

②国内外からの教育旅行などの積極的受入れ

- ・民間旅行事業者等と連携し、市場内部の見学を行う観光ツアーを経常的に受け入れることにより、これまで市場協会だけでは対応しきれなかったインバウンドを含む大阪近郊以外からの幅広い見学需要を受け入れる。
- ・特に、市場見学は体験型教育旅行ニーズに合致していることから、一定の需要が見込める教育旅行の受入れを積極的に検討する。

《取組にあたっての考慮事項》

- ・中央卸売市場の本来機能を尊重した見学ルールづくり
- ・市場関係者と民間旅行事業者の連携のもと、観光客を受け入れられる体制づくり
- ・ツアー商品開発及び実証実験等を通じたニーズ把握

〈取組3〉周辺地域との連携

大阪城や天保山、USJ など大阪の主要観光拠点と大阪市中央卸売市場(本場)をつなぐアクセスルートを確保する。

また、鉄道最寄駅のある周辺地域から市場をめぐるストーリーを構築することにより、最寄駅から距離があるなどの交通アクセス上の欠点を、周遊の魅力に転換する。

①舟運による水上からのアクセス確保

- ・中央卸売市場前港を大阪市中央卸売市場(本場)周辺への主要アクセス拠点のひとつとし、 大阪の主要観光拠点とつなぐ舟運の定期航路を開発し、同市場周辺を大阪における主要観光 ルート上に位置づける。
- ・合わせて、臨海部と「水の回廊」をつなぐジャンクションとして機能することで、水都大阪 における舟運の移動交通手段としての利用拡大を促進する。

<水の回廊からのアクセス例> 大阪城港⇔八軒家浜船着場⇔中央卸売市場前港、

湊町船着場⇔中央卸売市場前港

<臨海部からのアクセス例> 天保山⇔USJ⇔中央卸売市場前港、名村造船所跡地⇔中央卸売市場前港

②観光バス等の受入れ

・大阪市中央卸売市場(本場)内又は周辺に、観光バスや一般来場者が利用可能な駐車スペースを確保し、来場者の多様なアクセス手段に対応した受け入れ環境を整備する。

③最寄駅からのルート整備

・鉄道最寄駅から大阪市中央卸売市場(本場)まで周辺地域の魅力を楽しみながら安心して歩くことができる歩行者空間の整備を行う。

④対岸や周辺地域における賑わい拠点機能整備

・中之島西部や川口地区における賑わい拠点機能の整備により中之島西部エリア全体のシンボル空間創出を推進する。

《取組にあたっての考慮事項》

- ・周辺地域のまちづくりへの働きかけ
- ・舟運ルートの開発及び実証実験等を通じたニーズ把握

〈取組4〉目標像の可視化

目標像及び $\langle 1 \rangle \sim \langle 3 \rangle$ の各取り組みの浸透、PR を図る。

①パブリシティ

・ホームページや紙媒体などを活用し、水都大阪の推進など関連する取り組みと連携した効果 的な情報発信、プレスリリースを行う。

②建物のしつらえデザイン、案内サイン設置等

・大阪市中央卸売市場(本場)の施設の開放性を高めるため、バナーの設置など周辺のまちと 調和した建物のしつらえづくりや、デザインに配慮した案内サイン等の設置を進める。

《取組にあたっての考慮事項》

- ・市場及び周辺まち全体における目標像の共有
- ・実現に向けた機運づくり
- ・官民連携により継続的に取り組みを展開するための推進体制を確立

2. 取り組みの推進方針

オール大阪における観光振興や水都大阪まちづくりの推進の動きと呼応しながら、大阪市中央 卸売市場(本場)及び周辺地域の観光拠点化を着実に推進していくために、以下の3つの方針を 設定する。

①市場内部及び外部(市場前の水辺空間等)から周辺への取り組み波及

- ・大阪市中央卸売市場(本場)を核に、同市場及び周辺地域の観光拠点化を推進するためには、 同市場における観光客を受け入れるための素地固めから取り組んでいく必要がある。そこで、 新たな観光拠点化に向けた取り組み分野のうち、大阪市中央卸売市場(本場)内部及び外部 (市場前の水辺空間等)の活用など、直接的に同市場の機能等に関わる<1>市場内外の賑わい 形成および、<2>市場見学ツアーの充実の2分野から取り組みの具体化をすすめる。
- ・同時に、「水と光のまちづくり構想」をふまえ、中之島西部エリアのシンボル空間創出に向け、 象徴的な光の演出や、対岸エリアのリノベーション等をオール大阪で推進し、エリアのブラ ンド化をめざす。
- ・大阪府市都市魅力戦略会議において、「水と光のまちづくり構想」の再重点化について検討がなされるとともに、大阪府においても、中之島西部エリアのシンボル空間創出に向け、検討が進められる予定である。(p26 将来イメージ参照)

②実証実験による試行・検証

- ・来場者ニーズを把握し、継続的に実施できる推進体制、事業スキームを確立するため、実証 実験による事業の試行及びその検証を行った上で、本格的な事業実施に移行する。実証実験 は平成23・24年度より順次実施し、平成25年以降の本格実施を目指す。
- ・大阪市中央卸売市場(本場)内部及び外部(市場前の水辺空間等)の観光拠点化には市場関係者の理解・協力が前提となることから、事業実施にあたっては、同市場の本来機能を尊重した上で市場関係者と連携・共立できる方法を探る。

③段階的なターゲット設定

・観光拠点化にあたっては、地域の住民が誇りと愛着を持てる場所となることが、日常的な集 客や賑わいにつながり、さらには観光客への魅力発信につながることから、将来的にはイン バウンドを含む幅広い観光客の受け入れを目指すが、まずは大阪近郊居住者や教育旅行など をターゲットに絞り、一般的な関心、ニーズを図る。

■オール大阪で進める、中之島西部エリアのシンボル空間・将来イメージの一例



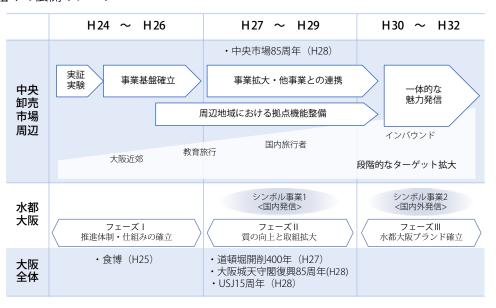
3. 取り組みの展開イメージ

観光拠点化の取り組みは、「水と光のまちづくり構想」と同じく平成32年を目標年次と定め、 3段階のフェーズにより事業の実現及び拡大を図る。

合わせて、食博の開催(平成 25 年)や道頓堀開削 400 年(平成 27 年)、大阪城天守閣復興 85 周年・USJ 開業 15 周年(平成 28 年)など、大阪を取り巻く観光動向と連動した効果的な PR・情報発信を推進する。

- ・フェーズ I —推進体制・仕組みの確立 (平成 24~26 年度) 実証実験による試行・検証によって、各取り組みの事業基盤の確立を図る。
- ・フェーズII 一質の向上と取り組み拡大(平成27~29年度) 各取組みの事業拡大や、水都大阪など他事業との連携を推進する。 周辺地域における拠点機能整備の推進を図る。
- ・フェーズⅢ—水都大阪ブランド確立(平成30~32年度) 周辺地域や水都大阪の取り組み等との一体的な魅力発信を図る。

■取組みの展開イメージ



4. 実証事業メニューの提案

新たな観光拠点化に向けた取り組み分野のうち、〈1〉市場内外の賑わい形成および、〈2〉市場見 学ツアーの充実の2分野に関する事業の具体化を目指して、以下の3つの実証事業を提案する。

(1) 水辺空間を活用した場外朝市の実施

①本格実施を見据えた事業のねらい

- ・大阪市中央卸売市場(本場)周辺を食育の発信拠点として、同市場の存在価値を高め、食品 流通の要であることをアピール。
- ・ 「西日本最大級の朝市」創設により、水都大阪の新たな観光資源化を図る。

②実証事業における検証ポイント

- ・継続的に運営可能な事業体制及び資金スキームの検討
- ・来場者ニーズ・需要の把握

③実証事業の概要

コンセプト: 食育パーク!「天下の台所 ざこばの朝市」

実施時期: 平成24年 年3回程度

第4日曜日(本場休場日)、午前8時~午後2時(BBQは9時~)など

実施場所: 安治川沿いの野田南緑道

実施内容: ○物販ブース、飲食ブース、食育ブース、展示・協賛ブースなど35ブース程度

○食育ブース…寿司作り体験、野菜ソムリエによる料理教室など

○展示・協賛ブース…食育をテーマにした展示、学習ブース、せり体験など

○BBQ 会場: BBQ インストラクターによる食育を伝えながらの正しい・美味しい海 鮮 BBQ づくり。朝市で購入した新鮮な海産物や野菜などの素材を堪能。

④実験後の展開イメージ

・月1~2回の定期開催

(2) 水辺空間を活用した飲食店舗の設置

①本格実施を見据えた事業のねらい

- ・「市場ならでは」を期待する来場者の受け皿として、大阪市中央卸売市場(本場)の食材を用いた飲食を提供する飲食店舗を設置する。
- ・合わせて、水辺空間を活用することにより水都大阪の新たな観光資源化を図る。

②実証事業における検証ポイント

- ・継続的に運営可能な事業体制及び資金スキームの検討
- ・来場者ニーズ・需要の把握

③実証事業の概要

コンセプト: 水辺で市場ならではの食を楽しむビュッフェスタイルビアガーデン

実施時期: 平成24年 夏季の2ヶ月間程度、午後5時~10時など

実施場所: 安治川沿いの野田南緑道、中央卸売市場前港

実施内容: ○半屋外の仮設レストランと客席を設置

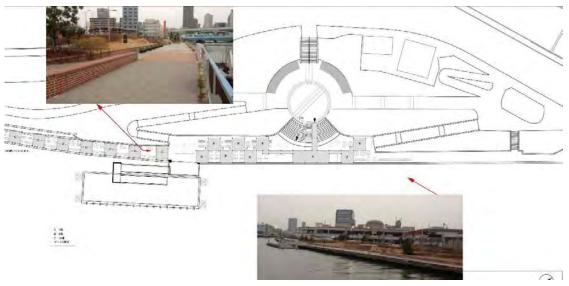
○市場で調達した食材を利用した飲食物の提供とビアガーデン

○淀屋橋・道頓堀等から船、梅田からバスのチャーター便による送迎や、ウォーキング、ビジネス交流イベント等の開催による PR 集客

④実験後の展開イメージ

- ・2~3年間の連続開催による夏季の賑わい拠点としての定着化
- ・常設化に向けた施設整備

■水辺空間を活用した飲食店舗の設置イメージ



(3) 旅行会社等と連携した市場見学ツアーの実施

①本格実施を見据えた事業のねらい

・まぐろをはじめとする鮮魚の早朝せり見学など、観光客が期待する「非日常的な市場空間の体験」に応える観光ツアーの受入れを通じた大阪市中央卸売市場(本場)機能の周知・PR。

②実証事業における検証ポイント

・大阪市中央卸売市場(本場)の本来機能を尊重した見学ルールの項目 (人数制限、時間制限等)

・市場関係者と民間旅行事業者の連携による望ましい観光客の受入れ体制

・見学ツアー内容に対する参加者ニーズ・需要の把握

③実証事業の概要

実施時期: 平成24年 随時実施

実施場所: 大阪市中央卸売市場(本場)場内

実施内容: 民間旅行事業者等によるモニタリングツアーの実施(近郊居住者対象)

合わせて、豪華客船乗客などインバウンドを対象とした単発ツアーを、適宜積極

的に受け入れる。

■モニタリングツアーメニューイメージ(水都大阪の新たな観光拠点・調査検討委員会における委員提案等)

メニュー(案)	履行人数	開催日時	ツアー内容(案)
近郊居住者を対象とした仕入れ体験と食事を楽しむツアー	【少人数】 2-4名	【休日中心】 8 時-14 時	・仲卸売場での仕入れ体験、業務関連棟での買い物 ・場内又は周辺での食事
国内外の団体客、教育旅行を対象とした仕入れ体験と食事を楽しむツアー	【大人数】 20-80名 バス1~2台	8 時-14 時	・通常の市場見学 ・多目的ホール等を利用した食事提供 ・仲卸売場での大物解体見学、仕入れ体験 ・仕入れたものをその場で調理・試食体験
早朝の市場の活気を楽しむツアー	【少人数】 10-20 名	【休日】 毎週1回	・青果(野菜·果実)せり見学 ・旬の食材についての講義 ・旬の食材を使った料理教室と試食会
旬の食材を使った料理教室	【少人数】 10-20 名	【平日】 9 時-13 時 年 4 回程度	・青果(野菜、果実)せり見学/模擬せり体験 ・マイナス 25 度冷蔵庫体験 ・仲卸売場での大物解体見学 ・食育、流通に関する講話
食育を通じた一時預かり	【少人数】 1ファミリーー 20名程度	【休日】 11 時一 14 時 毎週開催	・水辺空間を活用したにぎわい拠点で、子ども対象の食育に関する講義 (仕入れ体験、食事のオプションとして実施)
市場の活気とプロの目利きを体験 するツアー	【少人数】 10 名まで	【休日】 8 時半- 11 時	・仲卸売場での大物解体見学、仕入れ見学 ・一流レストランシェフの食材の選び方講座 ・仕入れた食材を使った料理体験と試食、又は仕入れた食材を用いたシェフによるランチ付プラン
豪華客船乗客向け市場見学クル ーズツアー	【少人数】 25 名まで	【豪華客船の 大阪入港時】 3時半―9時	・天保山~中央卸売市場前港クルーズ・場内飲食店での朝食・中央卸売市場前港~大阪城港クルーズ・大阪城観光

④実証実験後の展開イメージ

- ・市場関係者および民間旅行事業者等による見学ツアー受入れの母体となる組織の設立
- ・市場見学ルールの周知 (ガイドライン等の策定)
- ・国内一般旅行者を対象とした商品開発、募集

水都大阪の新たな観光拠点・調査検討委員会

◆検討組織体制

座 長	大阪府立大学 21 世紀研究機構教授	橋爪 紳也	
副座長	大阪市立大学大学院工学研究科准教授 嘉名 光		
委 員	大阪プロガイドマネジメント協会 代表	小田切 聡	
	近畿日本ツーリスト㈱ 関西営業本部部長兼ブランド戦略室部長	中永 毅	
	大阪シティクルーズ推進協議会 事務局長	大江 幸路	
	京阪電気鉄道㈱ 事業統括室観光担当部長	永野 修	
	(㈱ジェイティービー 西日本国内商品事業部地域統括部長	高橋 広	
	西日本旅客鉄道㈱ 近畿統括本部営業課長	大平 竜士	
	(㈱ロイヤルホテル マーケテイング部長	萩田 勝紀	
	大阪市ゆとりとみどり振興局観光室長	花田 公絵	
	大阪商工会議所 地域振興部長	吉田 豊	
オブ゛サ゛ーハ゛ー	大阪市都市整備局まちづくり事業企画担当課長	西 明子	
	大阪市港湾局集客施設担当課長	中子 俊行	
	大阪市中央卸売市場 本場長	藤原 宙造	
	大阪市福島区総合企画担当課長	大内 泰幸	
	大阪市住之江区地域活動支援担当課長代理	杉本栄美子	
	水都大阪推進委員会(ゆとりとみどり振興局水辺魅力担当課長)	土橋 ひとみ	
	大阪府西大阪治水事務所水都再生課長補佐	美馬 一浩	
事務局	大阪市ゆとりとみどり振興局観光企画担当課長	花澤 隆博	
	大阪市ゆとりとみどり振興局観光企画担当課長代理	田中錦之助	
	大阪商工会議所 地域振興部次長	中野 亮一	
	大阪商工会議所 地域振興部	中村 裕子	

(以上 22人)

◆検討内容

7月14日	第1回	1.委員会の概要について 2.今後の検討に向けて(意見交換) 3.当面の進め方	
7月28日 8月3日	第2回	1. 大阪市中央卸売市場(本場)の現状視察	
8月19日	第3回	1. 先進事例視察(東京築地市場)	
10月5日		1.水辺エリア視察(北加賀屋エリア)	
10月13日	第4回	1. 大阪市中央卸売市場(本場)の現状及び視察報告、 ベリパイベント参加者アンケート結果報告 2. 東京都築地市場の視察報告 3. 大阪市中央卸売市場(本場)及び周辺地域のブランディングに向けて 4. 今後の進め方	
1月31日	第5回	1.「水都大阪の新たな観光拠点調査検討報告書」(骨子素案) 2.その他	
2月22日	第6回	1.「水都大阪の新たな観光拠点調査検討報告書」(案) 2.実証実験事業案	

水都大阪の新たな観光拠点調査検討 報告書

平成24年2月

発 行:水都大阪の新たな観光拠点・調査検討委員会 事務局 大阪市ゆとりとみどり振興局観光室 大阪商工会議所 地域振興部

調査協力 株式会社ダン計画研究所